

# 稲作情報

## 適正な穂肥と水管理で 品質向上を

### ● 品種別出穂期予想

今年度の出穂予想は表のとおりとなっております。ただし、今後の天候などにより出穂日が前後することがあります。詳しくは、稲作現地指導会にてお知らせいたします。

### ● 穂肥は幼穂を確認して

#### ① 幼穂の確認

穂肥の施用にあたっては、幼穂形成期を的確に判断する必要があります。幼穂の長さが1mm〜2mmの時期が幼穂形成期になります。

圃場を見渡して平均的な生育量の株を選び、その中の一番長い茎を抜いて幼穂を確認します。そのときの幼穂の長さで、出穂前日数が推定できます。

一般的に畦畔際は生育が進みますので、最低でも5〜6条中に入って平均的な場所から5〜6本の茎を採取して長さを確認してください。

## 出穂（しゅっすい）

出穂とは、葉鞘から籾が出ている状態です。



## 品種別出穂予想

品 種	幼穂形成期	出穂予想日
コシヒカリ	7月 9日	8月 2日
こしいぶき	6月30日	7月24日
こがねもち	7月 5日	7月29日

稚苗5/5〜5/10

## 田植日が異なる場合の出穂予想（コシヒカリ）

田 植 日	幼穂形成期	出穂予想日	穂肥時期の目安 1回目（18〜15日前）
5月10日	7月 9日	8月2日	7月15日〜18日
5月15日	7月11日	8月3日	7月16日〜19日
5月20日	7月13日	8月5日	7月18日〜21日
5月25日	7月15日	8月7日	7月20日〜23日
5月30日	7月17日	8月9日	7月22日〜25日

## 【幼穂の長さを確認する】



### ② 適期適量の穂肥を

倒伏しやすいコシヒカリは、1回目の穂肥時期の草丈・葉色・茎数により穂肥量を加減します。

夏に栄養不足とならないよう、**2回目の穂肥はしっかり施しましょう。**

出穂前10日以降の窒素追肥は、食味を低下させやすいので施肥口に注意しましょう。なお、異常高温が続く葉色が極端に落ちているような状況では、3回目の穂肥を検討しましょう。

### ● 中干し以降は飽水管理で

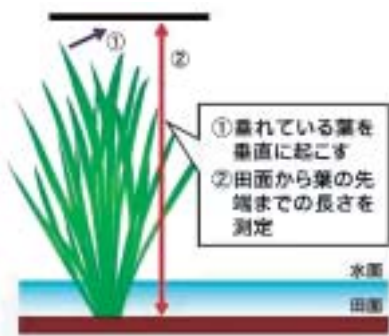
飽水管理とは、圃場を乾かさず、足跡や溝に水がたまっていく状態を保つ水管理です。根の活力を保ち、登熟に必要な栄養分を確保するため、中干し終了後から出穂後25日までは飽水管理を続け、出穂前後やフェーン、異常高温の日が続く場合は速やかにかん水し、深水管理にしましょう。

最終かん水は出穂後25日が目安です。その後も高温が続くと予想される場合は可能な限り遅くしましょう。

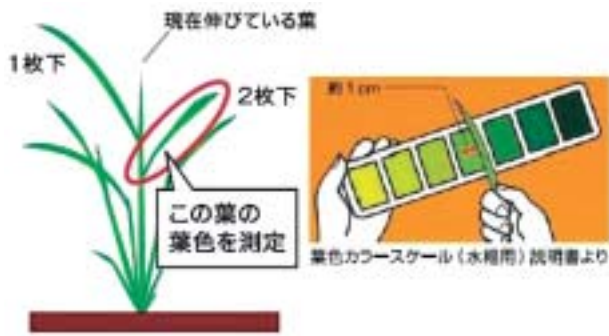
# 稲作情報



草丈の測り方

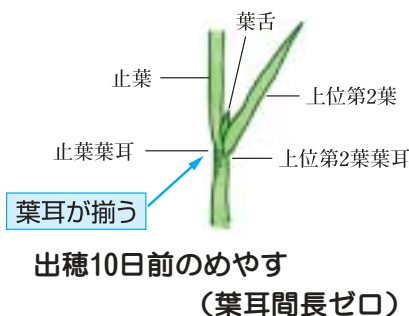


葉色の測り方



## 品種別穂肥施用時期

品 種 名	穂肥時期（出穂前日数）	
	1回目	2回目
コシヒカリ	18～15	10
こしいぶき	23～21	14
こがねもち	18～15	10



### 穂肥3回目のめやす

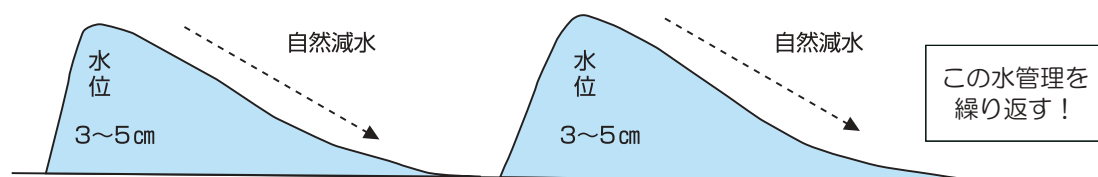
(高温時)

出穂期の葉色がSPAD値で30を下回ると予想される場合、出穂の3日前までに施肥を行う

### 1回の施肥量

有機30魚沼ロマン 穂肥専用	5～10kg位 /10a当り	特に初回は多すぎないように(有機穂肥は1～2日早めに施用)
魚沼ロマン 有機穂肥		
有機30魚沼ロマン 一発穂肥	10～15kg位 /10a当り	1回の施用で穂肥2回施用と同等の効果がある

### ～飽水管理のイメージ～





# 稲作 情報

## 稲作現地指導会開催のお知らせ

期日：7月8日（水）から14日（火） 会場：19会場（場所は下表のとおり） 時間：午後6時より

期日	地区	会場	期日	地区	会場
8日 (水)	五 辺	高梨振興会館前	9日 (木)	小栗田原片貝	片貝生産組合水番小屋前
	左岸片貝	片貝カントリー前		小栗田	第1カントリー前
	東小千谷	旧育苗センター跡地		川井	川井総合センター裏
	桜町	西部開発センター前		山谷・坪野	小栗田・坪野線高速ガード下
	中 央	西中集会所前		上片貝	上片貝公会堂前
10日 (金)	千谷・三仏生	J A 千田支店前	14日 (火)	岩沢東部	冬井集会所前
	吉谷・時水	時水焼却場前		山新田	わかとち office 前
	二 俣	旧育苗センター前		池ヶ原	育苗センター前
	岩 沢	旧岩沢硬化ハウス跡地		真 人	育苗センター前
	細島・上坪野	細島揚水機場付近			

ご都合に合わせて最寄の会場へお越しください。

## 農薬空容器・廃棄農薬の回収のご案内

7月20日（月） 当日のみの受付

**回収場所** 総合営農経済センター  
片貝営農経済センター

**回収時間** 午前 9:00～午後12:30

**対象品目**（当JAで購入した物のみ回収対象）

- （ア）農薬空容器…使い終わった農薬の容器（ポリ容器・ビン・缶・紙）
- （イ）廃棄農薬…期限切れなどで使わない農薬等

**※ビニール・マルチ等は回収いたしません。**

**処理料金** （ア）農薬空容器  
ポリ容器・缶・紙…310円/kg  
ビン …260円/kg  
（イ）廃棄農薬 …280円/kg

### 包装要領および注意点

- 空容器はよく洗ってください。
- 容器形態により分別して、それぞれ別のダンボールに詰めて搬入してください。
- 農薬空容器と廃棄農薬は別々に包装してください。
- 肥料袋に詰めて出さないでください。
- 水銀剤・PCP剤の回収はできません。

**※包装要領をお守りいただけないとお引き取りできない場合がございます。**

農業者は、農業用使用済みプラスチック等を適正に処理する義務があります。その為には、産業廃棄物管理票（マニフェスト）の交付や管理事務を各自で行わなくてはなりません。

JAでは、農業者の上記事務作業を軽減するため、事務代行を行います。事務代行には、農業用使用済みプラスチック等を排出する農業者より委任状を提出して頂く必要があります。

委任状は今号の広報誌に折り込んでありますので、ご確認ください。

お問い合わせ 資材課 ☎83-3845